



# 大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年11月1日  
土井首小学校  
文責：校長 江原芳樹  
第10号

土井首小学校の運動場側校門には、数本の桜の木があります。葉を茂らせている頃は、電線を覆う勢いでしたが、葉を落とした今は、ひっそりと静かに枝をのばしているように見えます。

この季節、多くの草木が日一日と色を衰えさせていきますが、緑のまま冬を耐える草木の中には、地表すれすれに葉を広げ、冬の準備をはじめめるものがあるそうです。落葉の季節は、同時に草青む季節でもあるのです。

11月は、10月の神無月に対して「神帰月（かみきづき）」という異名をもっています。また秋と冬の接続点であることから、「雪待月（ゆきまちづき）」とも呼ぶそうです。

気付けば立冬はすぐそこです。2学期も後半戦になりました。

## 小学校体育大会

10月12日（水）、快晴のなか、2年ぶりに小学校体育大会が開催されました。感染予防の観点から、保護者の方の参観はできませんでしたが、出場した6年生は練習の成果を十分に発揮してくれました。

小学校体育大会（通称「小体会」）は、9月から練習に取り組んできました。7日（金）には、在校生が「小体会出場選手を励ます会」という集会を開き、5年生を中心とした応援と各種目ごとにメッセージ入りの旗を手渡しました。

小体会では、日頃から社会体育で取り組んでいる競技・球技への参加ができません。サッカークラブやバスケットボールクラブに所属している子どもたちは、日頃あまり取り組んでいない競技・球技に参加することになるので、9月からの練習が大切になります。

結果は次の通りです。

### 【陸上競技】

ハードル女子 1位

幅跳び女子 3位

### 【弾入れ競技】

前半 13 個、後半 17 個 3位

### 【サッカー】

男子 1 勝 1 敗

女子 1 勝 1 分 準優勝

### 【バスケット】

男子 1 勝 1 敗

女子 2 勝 準優勝

子どもたちにとってすべてが満足のいく結果ではなかったようですが、仲間と共に高い目標に向かって取り組むことが良い経験となっていました。

11月10日（木）には、3年ぶりの開催となる小学校音楽会（通称「小音会」）があり、土井首小学校では4年生が出場予定です。

次は、音楽を通して、仲間と心をつなぐ取り組みます。また一つ、確かな成長へとつながると期待しています。

## 「スマホ脳」②

先日、秋晴れに誘われ、秋桜を見に出かけました。今年は9月の気候が秋桜に適していたということで、長崎県の秋桜の名所はどこも見事な花が咲いています。

諫早の自然干拓地へ行くと、多くの家族連れがいました。外出自粛もなくなり、みなさん秋桜をバックに写真を撮っています。そのなかで、ちょっと気になる親子がいました。小学校低学年のお兄ちゃんとまだベビーカーに乗った妹、そして両親の4人家族です。気になったのは、ベビーカーに乗った妹以外が、3人ともスマホを手にもって、それぞれ画面を見入っていたことです。下の妹は、秋桜畑に目をやり、なにか伝えたいことがあるのか、しきりに言葉を発していますが、スマホを手にした3人は反応していませんでした。

この場面は、ほんの一瞬のことだったのかもしれませんが、象徴的な場面でもあったと感じました。

### 【幼児とタブレット学習】

長年子どもの脳の発達を研究している人の中には、「タブレット端末が子どもの発達を助ける」というアイデアに批判的で、むしろ小さい子どもの場合は発達が遅れる可能性があることを指摘する人がいます。

子どもたちは「小さな大人」ではないので、大人にとって、例えばアプリのパズルと本物のパズルにそれほど違いはないが、幼い子どもは本物のパズルをすることで指の運動能力を鍛え、形や材質の感覚を身に付けていくのだそうです。タブレットではそうした幼児期の成長に欠かせない感覚を養うことはできません。

「書く能力」も同じです。みんながパソコンを使う時代なのに、手で書いたりきれいに書く練習をするなんて意味がないとの考えがありますが、手で書く、つまり紙と鉛筆で書くという運動能力は、文字を読む能力とも深くかかわっているのです。

### 《校長室散歩道 R4 版 No. 1 O》

アメリカ先住民では、「人は幸せをもたらすために生まれてきた」と考えられています。そして、人は一生の間に三つの「ありがとう」を言われるのだそうです。

一つ目は、バースディ（誕生）。

赤ちゃんは、人に幸せをもたらすために、遠い国からやってきた存在だと考えられています。そのため、生まれてきたときに、「ありがとう」と迎え入れられるのです。

二つ目は、リ・バース（再誕生）。

人は、成長するにしたがって、その人の役割が発揮されていきます。そうした特徴をその人の名前にします。例えば「グッドハンター（狩り名人）」、「メディスンマン（薬草見つける名人）」などです。みんなの役に立つようになり、「ありがとう」と祝福されるのです。

三つ目は、ギブ・アウェイ（与え尽くす）。

幸せをもたらすために人はやって来たのですから、人は死を迎えるとき「幸せを与え尽くした」と考えられます。だから、死を迎えた人に最後の「ありがとう」を送るのです。

一つ目と三つ目は、生と死への考え方だと言えますが、二つ目は、人としての生き方が問われているように思います。「役に立つ」、「役割をもつ」ことが、人が生きるうえで大切であることを教えてくれているようです。